今月の読み物

ある晴れた日曜日の午後に

第６班　月報委員
名　倉　直　利
（愛三木材株式会社）

社寺、仏閣などで御朱印をもらうことにしている。

麻雀を覚えたとき、まず麻雀の歴史から調べた私。

当然、**御朱印とはなんぞや？**そこからスタート。

所説色々あるみたいだが、お寺で修行の一環「写経」をした証明書が有力かな。

ちなみに写経とはお経を書き写したもの。

お経とは、、キリがないので省略。

名の通り、昔は「朱印（赤のご宝印）」だったそう。

現在の多くは「墨書き」なっているが、古今東西もらう人を楽しませてくれる。文字の豪快さやバランス、美しさなど、受け取り見る瞬間は何度目でもワクワクして楽しい。私も集め始めて数年が経ちました。

浅間大社の御朱印帳（私物）

先日のとある日曜日、朝起きたら嫁と子供が出かける支度をしていた。どうやら二人で用事があるらしい。

そもそも父親になってから11年、**日曜日の決定権**は無くなっていたので、ふいに訪れた好きに使える日曜日だ、お久しぶりでございます。

幸い天気もいい。すぐさま友人に電話して、午後会うことに。

簡単な話し合いの結果、御朱印の旅に出ることになった。

旅といっても都内、だが行ったことのない社寺仏閣は山ほどあるのでね。

そして私たちは導かれるように港区高輪の**「泉岳寺」**へと向かった。

話変わって我が家の庭には灯籠がある。子供のころはなんだろこれ？ってよく思ったものだ。

高さは３ｍ弱、円柱形ですごい存在感。

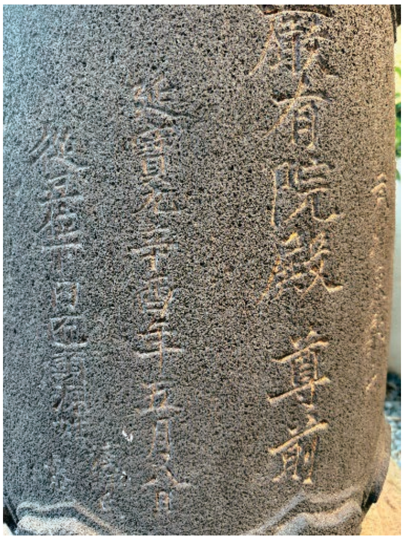
当時、なんて書いてあるかわからなかったが、側面に文字が彫られていて、そこに金箔がついてた。

幼少期、父には内緒で「わーい金だ、金だー！」ってカリカリと集めていたのは懐かしい思い出。

あ、これは私が墓場まで持っていく予定の話ね。

庭にある石灯籠

そんなある日、旗を持ったガイドさんが家に来た。
「灯篭を見せてください」
門を開けると20人くらいの人、なんだなんだ。
ガイドが説明をしてる、そしてみんな灯篭の写真を撮ってる。
今では毎年の事なので驚きもしないが、その灯篭には歴史があった。



内匠頭と掘られている

浅野内匠頭長矩（あさのたくみのかみながのり）が厳有院（げんゆういん）（徳川家綱（いえつな））の一周忌供養のため上野の東叡山寛永寺（かんえいじ）に寄進した灯篭で、戦後、寛永寺が徳川宗家の墓地を整理、その時に灯篭などを売り出した。それを先代が形の良いモノを買い、付いていた泥を洗い流したら、この金文字が出てきてビックリしたとのこと。
（私が金箔を削り取った）灯篭の側面にはそう書いてあるのね。おや、変な汗が出てきたぞ？
見にくいが確かに内匠頭って掘ってある。
かなり由緒があったのね。

ところでこの浅野内匠頭、どっかで聞いたことありますよね。
そう、**忠臣蔵**です。詳しくは説明しませんが、歴史上は赤穂事件と呼ばれ元は歌舞伎や浄瑠璃（じょうるり）の演目、後にドラマや映画化もされましたね。
そのため討ち入りの日12/14が近くなると聖地巡礼なのか皆でお越しになるわけ。
今でも我が家の風物詩になっている。

話し戻して友人と２人ここは泉岳寺駅。
地下鉄を降り、地上に上がると、目の前に立派な門が見えた、境内へ入る。
周りを見渡すとビルの中にいくつも学校があった。
「お願いします」受付で御朱印帳を出す。。
「では待っている間、写経をしてください。書き終わったらこちらへお出しください」
ほぅ、先ほど語ったが私この歴史は知ってるのよね。ただ粋な計らい、こういうの嬉しいね。
いきなり慣れない写経が始まったが、筆ペン久々だけどうまく書けてるかな。まぁ何事も経験が大事だ。
書き終わり、提出し待っている間、義士47名のお墓それぞれ線香を供えることが出来た。
墓石には名前と享年が記されていた。若い方も多いのね。無念だったろうに…手を合わせる。
大石内蔵助、浅野内匠頭のお墓もありました。
ただ47名、なのでお供えの本数を間違えるとたどり着けないので要注意だった。
序盤、豪快な本数をお供えしたため友達は途中で無くなっていた。

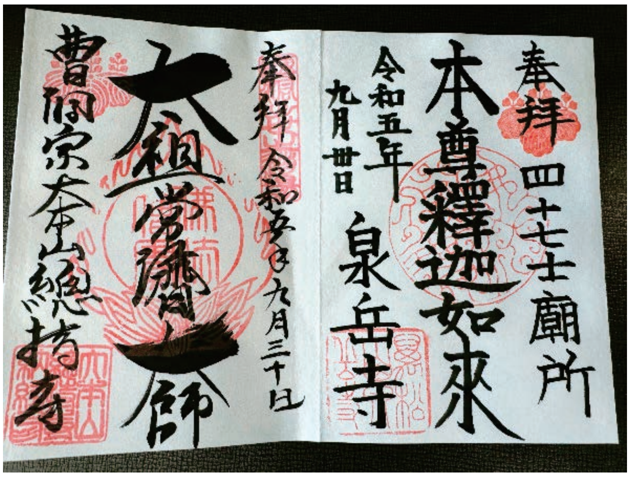
やっぱり歴史は聞いたら触れるが良いね、それが醍醐味であり魅力である。
その後、受け取った御朱印は達筆だった。

何気なく《私の中での忠臣蔵つながり》で訪れたわけだが、父のセリフがふと記憶をよぎる。
確か灯篭は基本【対（２基）】で存在して、我が家の灯篭にも【対がある】
その場所として覚えていたのは横浜の《総持寺》という名だけ。
検索すると鶴見駅から徒歩５分だそうだ。
幸い今いる最寄りの高輪ゲートブリッジ駅から路線図を見るとすぐだった。
よし行ってみるか！
私たちはおもむろに鶴見駅に向かった。

駅を出て線路沿いに少し歩くと右側に巨大な参道が見えた。
〖**曹洞宗　大本山　総持寺**〗と書いてある。
「だ、だいほんざん？汗」
由緒満載！私たちには場違い感が満載！ラップみたいだな。
どうやら曹洞宗の大本山（総本山）は福井の永平寺とここ（総持寺）だそう。
故・石原裕次郎さんの菩提寺なんだとか。

色々行ったが正直、関東でここまで大きなお寺はあまりないだろう。
参道を歩く、立派で大きな並木道、昨日今日の代物ではない。
私も材木屋だ、友人の「これなんの木？」との問いに「（え？あ、たぶん）スギ」と答える。
立ち木はスギと言えばだいたい当たるのは秘密だ。

社務所まで行く間に「相承700年」のぼりが多数見られた。
式典があるのだろう、あちらこちらで工事をしている。
しかし700年ってすごいな、ここに対の灯篭があるのか。
まずは中を拝見させてもらう、仏殿や大祖堂は目を奪われるほどの壮大さ。
その後、社務所に入り御朱印をいただく。
ご住職でしょうかダイナミックな筆使いお見事でした。



総持寺　泉岳寺

そして本題の灯篭の件を切り出す。

結果から言うと**「わかりません」**とのこと。
たくさんの方に聞いてもらったんだけどね、残念。
私もうろ覚えだったため確証があったわけじゃない、礼を言って出直すことに。
あれ記憶違いだったかな？

モヤモヤしたまま友達と別れ家に帰り父の部屋で資料を探す。
すると平成８年の新聞記事が出てきた。
そこには確かに「曹洞宗　大本山総持寺にある」と書かれている。
記憶は正しかった。
総持寺内の奥(おく)の院(いん)、虎嘯窟(こしょうくつ)という所に安置されている。となっていた。
大きなお寺だから見つからなくても仕方ないね。
だけど、やっぱりあるんだ。。生き別れた双子の兄弟を見つけたよ、少し感動。
しかし普段、奥の院は一般に公開されていないと書いてあった。

翌日、総持寺に電話をしてみた。
経緯を話し、是非見せていただくわけには？
一般と言えば一般だが、少し関係もあるのよね。
その答えは、現在相承700年の式典のため工事をしておりまして式典が終われば可能かと思います。とのことだった。
感謝をして電話を切った。
その時はぜひ拝見させていただこうと思う。

その内容を一緒に行った友人に電話で報告。
「何気なく行ったけど壮大な冒険になったな！ｗ」
ほんとだ、確かに想像以上の展開で今日ずっとワクワクしてたしね。
来年の初夏くらいかな、また鶴見に行く約束をしました。

もし機会があれば追って報告いたします。

ちなみにその友人の母校が実は泉岳寺で、先ほど私が見上げた学校だったのを後から聞いて、散々行ったであろう場所に文句も言わずに一緒に行ってくれて、やっぱりいい奴だなと再認識できたオマケつきでしたｗ